既存COBOL資産を活かした基幹システムのクラウド移行

– 長期安定運用と持続的成長を支えるモダナイゼーション戦略 –

SOMPOひまわり生命保険株式会社

© 2026 Sompo Himawari Life Insurance Inc. All Rights Reserved.

Agenda

01	自己紹介
02	ＳＯＭＰＯひまわり生命の概要
03	基幹システム クラウド移行の背景
04	次期基幹システムの全体アーキテクチャ
05	移行戦略
06	成果

03 基幹システム クラウド移行の背景

■ 単純移行の繰り返しが招いた「構造的課題」 ー 長期安定への限界と、新技術連携の壁

現状のシステム構造と背景

本日のテーマ

基幹システム
- サーバシステム
  - お客さまサービス
  - 代理店システム
  - 契約管理システム
- メインフレーム

✓2000年代前半の**古いアーキテクチャ**
✓合併・開発等を通じて**肥大化・複雑化**
✓オンプレミスで運用
✓更改では実行プログラムを**単純移行**

直面した2つの『構造的課題』

1 長期安定に対する将来性



IT技術の老朽化
（update見込めず　EOLを迎える製品あり）

2 継続的成長を支える新テクノロジーとの連携



古いIT技術は標準サポート外
（導入に時間とコストがかかる）

プロジェクトの目的とゴール

強い危機感
ひまわりファンの増加、ウェルビーイングサービス拡充への対応が困難

チャレンジ
次のH/W更改のタイミングに合わせて、新たな技術領域の取り込みによる変革とシステム構造の最適化

ゴール
長期安定かつ継続的成長を支えるシステム基盤の実現



© 2026 Sompo Himawari Life Insurance Inc. All Rights Reserved.

04 次期基幹システムの全体アーキテクチャ – コンセプト –

- 課題解決の基本方針：『クラウド移行』と『IT技術のデファクトスタンダード化』の徹底

クラウド移行

従来のオンプレミス上での
サーバー老朽化対応ではなく、クラウドを
活用して変動比率の高い基盤構造に変革

効果

- 機能・セキュリティのアップデート確保
- ハードウェア保守期限切れ対応からの解放
- 柔軟にリソースとコストを最適化

＋

デファクトスタンダード化

グローバルシェアの低い旧技術を
デファクトスタンダードなIT技術を
組み合わせたアプリケーション構成に変革

効果

- 新技術とのコネクティビティ向上
- 特定ベンダー・技術者依存からの解放
- 適切なコストで広く人員確保が可能

© 2026 Sompo Himawari Life Insurance Inc. All Rights Reserved.

04 次期基幹システムの全体アーキテクチャ – 何故COBOL資産を従来通り活用する判断をしたのか –

- 言語変更は「もはやチャレンジではなく無謀」 ー リスクヘッジと保守性担保を両立する戦略的選択

リスク

基盤とアプリケーション構造の変更に加えてプログラム言語まで変更することは
保守期限がある中で極めてハイリスク



お客さま向けサービス
代理店システム
契約管理システム

Rocket software
COBOL

保守性

QCD維持 現在の**品質・生産性の維持**が可能

体制維持 現行保守要員が**引き続き対応可能**

限定的な非互換 PoCから**非互換リスクは低い**

=

既存COBOL資産を最大限活用しつつ
デファクトスタンダード化＋コネクティビティ向上

© 2026 Sompo Himawari Life Insurance Inc. All Rights Reserved.

05 移行戦略 – 直面した課題 –

- 未踏の大規模クラウド移行を阻む「3つの壁」 ー リスク、品質、資産管理

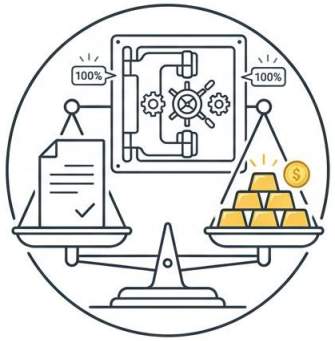
課題①



リスクレベルが算定できない

過去に類を見ない変革であったため、手探りでプロジェクトを進めていかざるを得ない

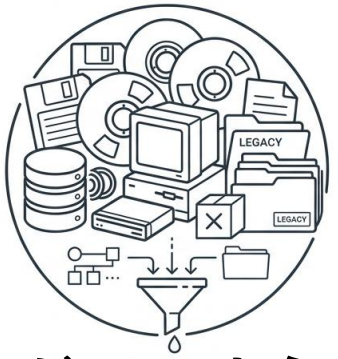
課題②



保険会社としての高い品質要求

生命保険は長期間の管理になることに加えて、金銭が絡む手続きも多数であり、現行保証は不可欠

課題③



レガシーゆえの資源管理不足

ソースの一元管理・棚卸が不十分であり、過去から脈々と引き継がれた不明・不要資源が多数存在

© 2026 Sompo Himawari Life Insurance Inc. All Rights Reserved.

05 移行戦略 – 「課題① リスクレベルが算定できない」に対するアプローチ –

- 「3段階のシステム別移行」と最終形から逆算した「過渡期アーキテクチャ設計」によるリスク分散



© 2026 Sompo Himawari Life Insurance Inc. All Rights Reserved.

05 移行戦略 – 「課題② 保険会社としての高い品質レベル」に対するアプローチ –

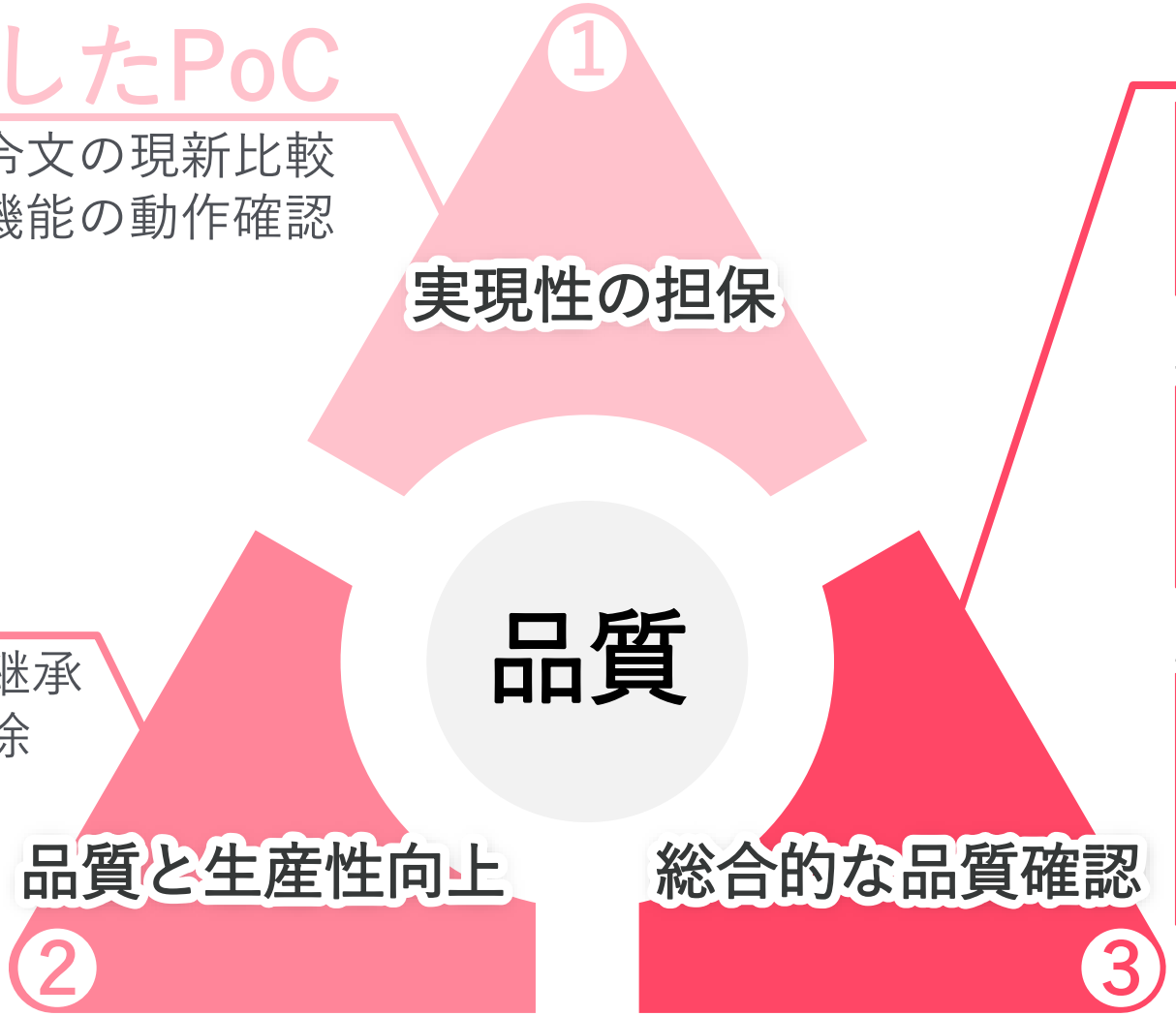
■ 金融機関の絶対品質を担保する3重の防壁 ー 『徹底したPoC』 『機械変換』 『3段階テスト』

徹底したPoC

✓ 全命令文の現新比較
✓ 一部機能の動作確認

機械変換

✓ 変換ツール作成・継承
✓ 人手によるバグ排除



3段階テスト

Step 1
命令網羅テスト
命令文を網羅的に現新比較を実施することで単体レベルの品質を担保

Step 2
全画面・全帳票テスト
画面・帳票・DBの現新比較をRPAで機械的に実施することで、効率的に機能の品質を担保

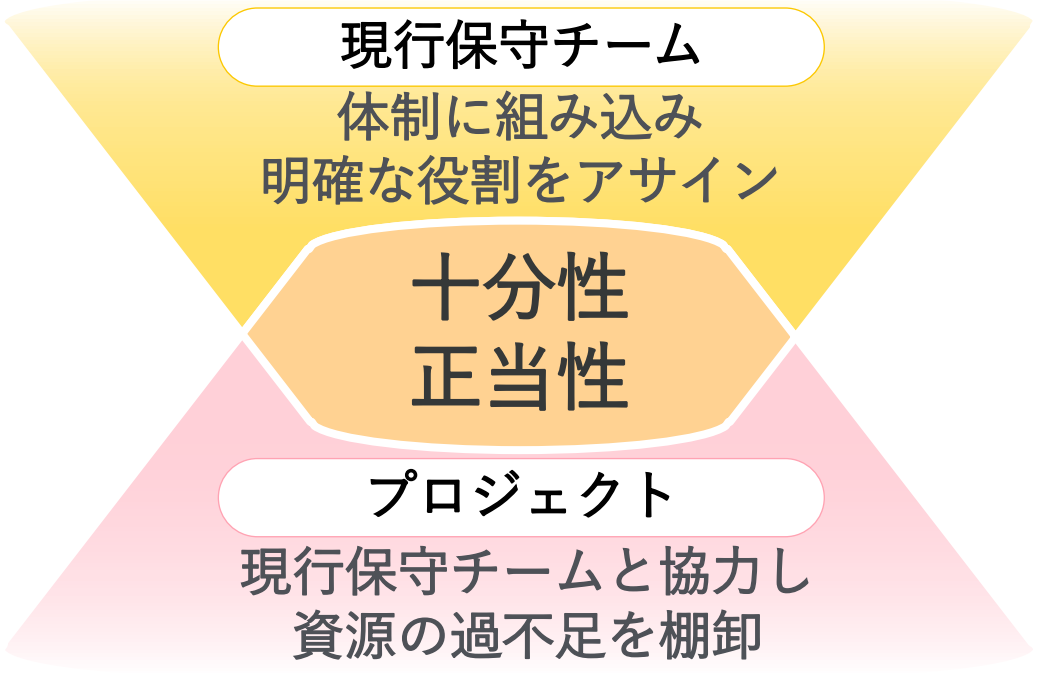
Step 3
本番比較テスト
実際に本番環境で実行されたトランザクションで現新比較を実施し、イレギュラーなケースも含めた業務レベルの総合的な品質を担保

© 2026 Sompo Himawari Life Insurance Inc. All Rights Reserved.

05 移行戦略 – 「課題③ レガシーゆえの資産管理不足」に対するアプローチ –

- 「現行保守チームの全面巻き込み」と「現行側での事前解消・リリース」の徹底

現行保守チームの全面巻き込み



現行側での事前解消・リリース

最新ソース消失	不適切な資源配置	既存の潜在バグ

現行システム側で対応・本番リリース

課題解消後に資源コンバージョン

教訓 資源収集が難航

プロジェクト開始前にコストをかけて資源の棚卸しを実施すること

© 2026 Sompo Himawari Life Insurance Inc. All Rights Reserved.

06 成果 – サマリ –

- COBOL資産存置 × クラウド移行が結実させた4つの価値

1 短期開発

5年

大規模モダナイゼーションを
「5年間」で完遂する見通し

2 オープン化の礎

脱メインフレーム

契約管理システムの
一部メインフレームをAWS上に移行を実現

3 コネクティビティ向上

API化

COBOL業務ロジックのAPI化により
外部システムとのシームレスな融合を実現

4 将来性の確保

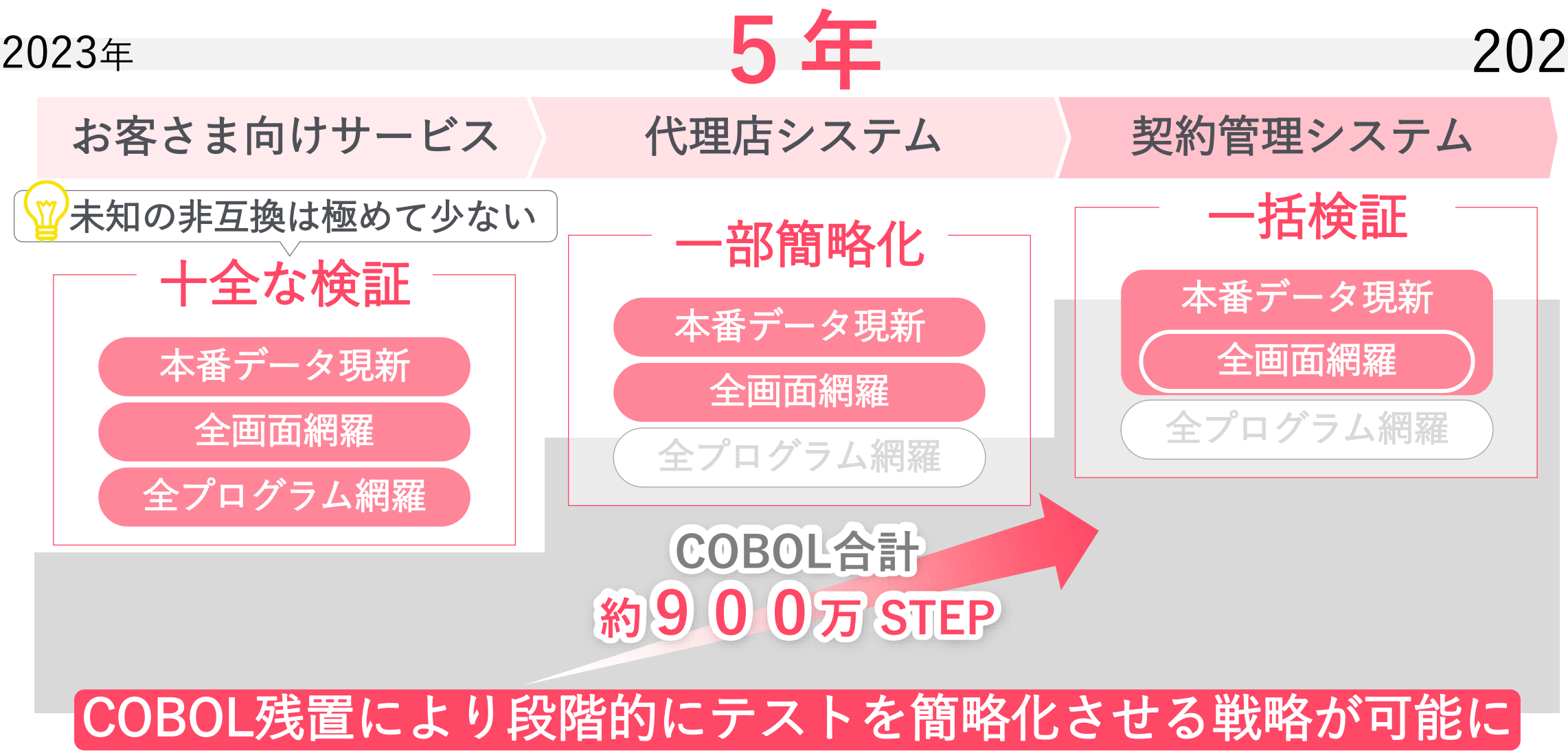
CI/CD

Git/Jenkinsによる自動化パイプラインの実現

© 2026 Sompo Himawari Life Insurance Inc. All Rights Reserved.

06 成果 – 1 短期開発 –

- COBOL資産 約900万ステップの大規模モダナイゼーションを「5年間」で完遂する見通し



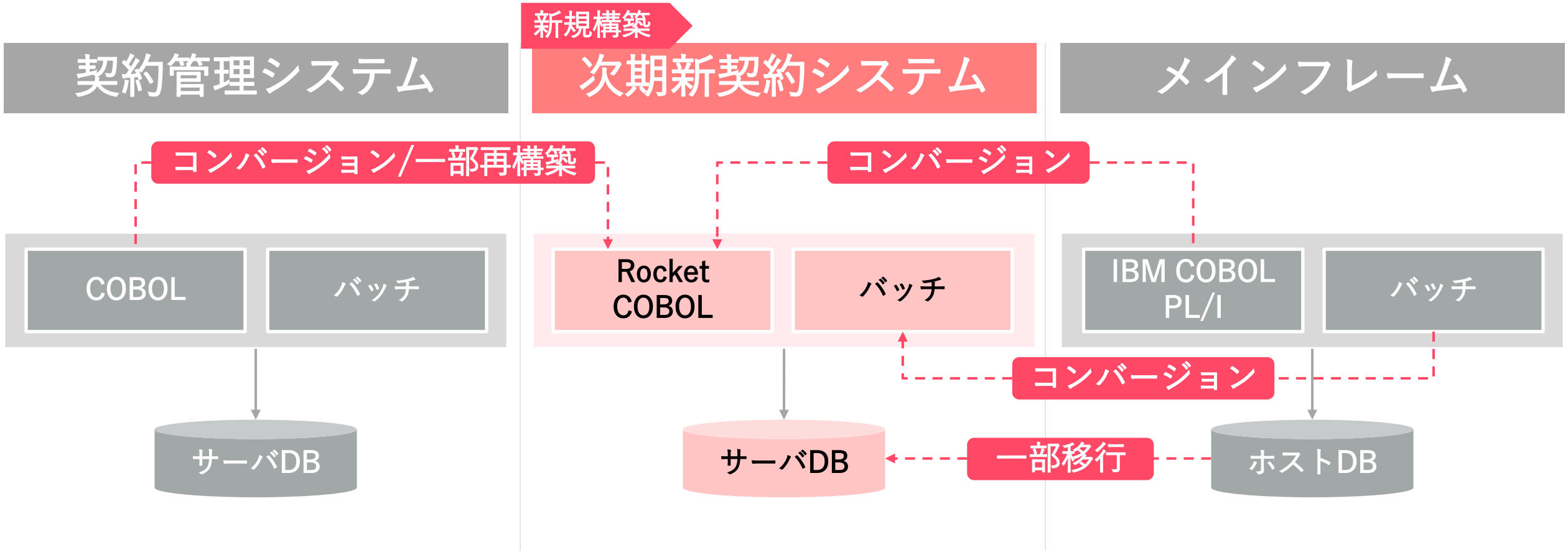
© 2026 Sompo Himawari Life Insurance Inc. All Rights Reserved.

06 成果 – 2 オープン化の礎 –

- 契約管理システムの一部メインフレームをAWSに移行し、脱メインフレームを実現

✓ メインフレームとサーバの機能が複雑に密結合していた新契約システムを刷新し、機能配置を最適化
✓ メインフレーム上のIBM-COBOLをRocket COBOLにコンバージョンすることで脱メインフレームを実現

▶ AIを前提とした業務変革にも対応できるシステム構成にモダナイズ



© 2026 Sompo Himawari Life Insurance Inc. All Rights Reserved.

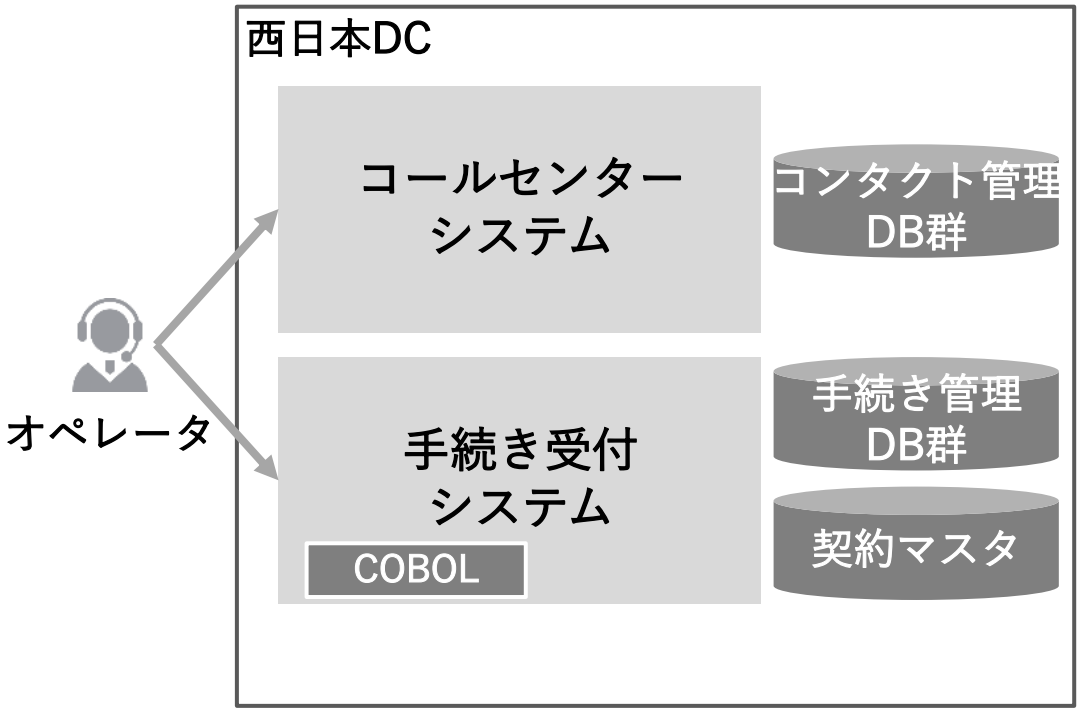
06 成果 – 3 コネクティビティ向上 –

- COBOLロジックのAPI化により、Salesforceおよび最新テクノロジーとのシームレスな融合を実現

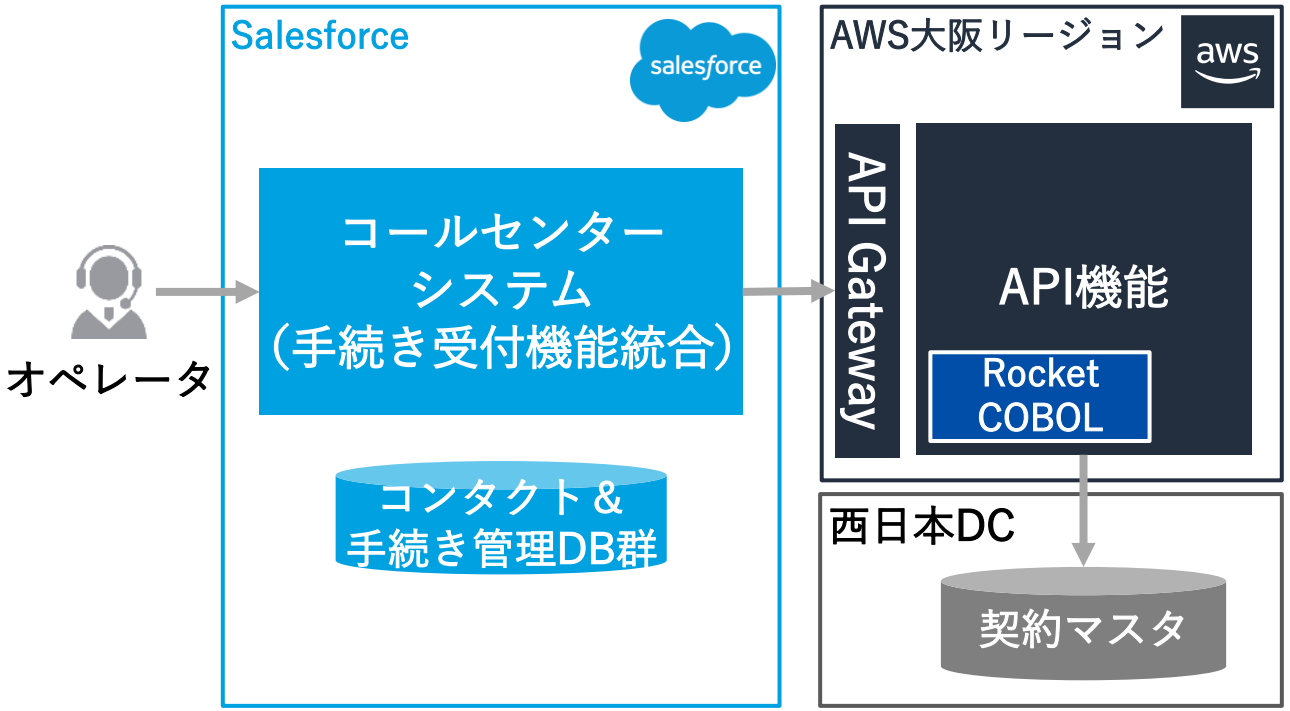
✓ コールセンターシステムを、グローバルシェアの低いパッケージ製品からSalesforceに置き換え
✓ 手続き受付システムとして別に構築されていたCOBOL業務ロジックをAPI化することで、Salesforce側に移植

▶コールセンターシステム全体を最適化し保守性・生産性を向上
▶音声認識等の新しいテクノロジーとの連携を強化

As-Is システム構成



To-Be システム構成



© 2026 Sompo Himawari Life Insurance Inc. All Rights Reserved.

06 成果 – ④ 将来性の確保 –

- Git/Jenkinsによる自動化パイプラインの実現 ー モダナイゼーションを起点にAI駆動型開発の未来へ

✓ 今回のプロジェクトによって、CI/CDやAI駆動型開発を実現するための『下地』が整った状態
✓ この状態はあくまでスタートライン。今回構築した基盤を活用して開発・運用のイノベーションにチャレンジし、ビジネス価値の創出に繋げる

現状の取り組み（将来に向けた第一歩）

手作業の従来プロセス

✓ ソース手動配置・コンパイル
✓ 実行モジュールの手動配置
✓ 資源管理が不完全



将来への展望

システム開発・運用のイノベーション

✓AI駆動型開発
✓自律運転する基盤・運用（AIOps）

© 2026 Sompo Himawari Life Insurance Inc. All Rights Reserved.